
とある猫の旅

聖氷

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
とある猫の旅

【コード】
N8633N

【作者名】
聖氷

【あらすじ】
子猫は、親と旅をしていた。旅の途中で、親は車に轢かれる。全く悲しむことのなかった猫は静かに胸の中で復讐を誓う。そんな猫の復讐の旅。

(前書き)

あらすじではあんなこと書いていますが、実際はそんなに濃くありません。スカスカの文章です。

残酷描写ありとなっていますが、残酷かどうかは作者の判断です。

猫の親子。誰かに飼われているわけでもない。旅する猫。道路を横断したとき、ソレは車と道路の間に存在した。

子猫は見た。赤い液体でぬれる道路と、その車を。子猫は知っていた。親がどうなったのかを。もう片方の親も車に轢ひかれたから。泣きながら駆け寄ることもしない。白い境界線の向こうについてから、静かに深く深く………垂れた。しばしの黙禱。

コレが一つだけ自分の安全よりも優先したことがある。意味不明ナンバープレートな記号の確認。

最初に轢かれたモノを見たとき、プレートとしか見てなかったもの。後にそのものが敵カタキを特定できるものだを知る。そのとき、後悔した。自分しか見てなかったもの、それを覚えていれば……。

だから、子猫は自分の安全確保の前に、プレートを見て、覚えた。

5年ほどの月日が流れただろうか。1ヶ月ほど前、そのプレートをつけて走る車を見た。子猫は必死になって追いかけた。いつも冷

静な猫だったが、いや、だからこそ何も考えられなかった。いくら子猫じゃなくなった子猫だとしても、（いくら成長しても）車を追いかけられるスピードなど手に入らなかった。

そして、そのまま白い境界塀の隙間をくぐり、落ちた。

満身創痍。そんな感じだった。体はぼろぼろ。傷を癒すために、ゆっくり猫は歩き始めた。そして、ゆっくり体を休められる場所を見つける前に……、見つけてしまった。あの車を。

その車は止まっていた。猫がたどり着く前に、中から人が出てきた。そして、森の中へ入っていった。猫は、方向転換すると、人のほうを追いかけていった。岩に腰掛けて、休憩していたであろう人は、自分めがけて突っ込んでくる満身創痍の猫を見てどう思っただろうか。人は、顔に大きな傷を受けた。かろうじて、目、鼻、口、耳は守られたものの重症だった。猫もぶつかった瞬間につめを大きく出した自分の前足で1回ひっかく以外はしなかった。猫は休養を優先した。

半月ほどして、回復した猫は、また旅を続けた。そして、見つけた。あのプレート。そこは、どこだかわからなかった。でも、プレートは車についてなかった。プレートだけを頼りに車を、そして人を追っていた猫はどうしていいかわからなかった。

そこに倒れ込んだ猫は、ぐっすりと眠った。そう、ぐっすりと……。

翌朝、
猫は

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8633n/>

とある猫の旅

2010年10月19日17時15分発行